



HAL
open science

第 27 回 EAJRS ブカレスト大会
Miyuki Yamamoto

► **To cite this version:**

Miyuki Yamamoto. 第 27 回 EAJRS ブカレスト大会. Lettre d'information de la société franco-japonaise des bibliothécaires et des documentalistes, 2016. <halshs-01397808>

HAL Id: halshs-01397808

<https://shs.hal.science/halshs-01397808v1>

Submitted on 16 Nov 2016

HAL is a multi-disciplinary open access archive for the deposit and dissemination of scientific research documents, whether they are published or not. The documents may come from teaching and research institutions in France or abroad, or from public or private research centers.

L'archive ouverte pluridisciplinaire HAL, est destinée au dépôt et à la diffusion de documents scientifiques de niveau recherche, publiés ou non, émanant des établissements d'enseignement et de recherche français ou étrangers, des laboratoires publics ou privés.

第 27 回 EAJRS ブカレスト大会

山本みゆき

第 27 回日本資料専門家欧州協会 (EAJRS) 年次大会が 9 月 14 日から 17 日までルーマニア首都ブカレストで開催された。ブカレスト大学図書館の Steluta MAXIM さんが中心となり、日本語・日本文学科の先生方と学生の皆さんの多大なる協力のもと、開催前日の飛行場出迎えから出発まで至れり尽くせりでお世話いただき充実した会議となった。

大学中央図書館の美しい会議場で、開会の挨拶に次いで学生有志グループによるフォークソング合唱があり、「上を向いて歩こう」「竹田の子守歌」「あの素晴らしい愛をもう一度」に参加者の多くが胸を熱くした。

(写真挿入)

参加者は 20 か国から 81 人に及び、内訳は、日本 27 人、イギリス 13 人、フランス 9 人、主催のルーマニア 8 人、アメリカ 6 人、その他の国から 1~2 人であった。「日本資料図書館の国際協力」をメインテーマに、ヨーロッパ各地、ロシア、アメリカに存在する日本資料図書館所蔵ドキュメント状況、地図や美術資料に関する報告、日本機関とのパートナーシップ、デジタルヒューマニティによる日本研究支援、歴史の中の様々な日本関連資料等々、11 セッションに分けて発表報告が行われた。

SFJBD 会長安江明夫氏は、二年前に立ち上げられた EAJRS 在欧和古書保存ワーキンググループのアドバイザーとして、ヨーロッパの 9 機関を訪問し所蔵和古書の調査と助言を行った内容について報告された。調査を受けた機関のうち、オクスフォード大学ボドリアン図書館、セインズベリー日本芸術研究所、オスロ大学人文社会科学図書館、チューリッヒ大学図書館の日本資料担当者が安江氏のアドバイザーをもとにしたその後の実施状況について報告した。貴重な和古書を保存するためには細やかな配慮が必要で一朝一夕にはできず、定期的継続的な取組が要求されることがよくわかった。

フランスからはパリ国際大学都市日本館図書館の

市川義則氏の興味深い発表があった。氏は 20 世紀初頭に活動があったとみられる「パリ日仏協会」について研究されており、協会図書室の運営記録などから、この協会が当時のヨーロッパにおける日本、特に日本美術研究の要であったのではないかと報告された。

筆者を含め 1970 年代少女漫画で育った参加者にとって最も印象的だった発表は、大塚瑛士氏による「アルフォンス・ミュシャと少女まんがの起源」であろう。ミュシャはオーストリア帝国モラヴィア出身だがパリでその才能が認められ、フランスのアル・ヌーヴォー美術を代表するアーティストとして有名だと思われる。「ジャポニスム体现者」ミュシャの画風が明治期女性文学の歌集や雑誌の挿画に取り入れられ、「文化の往復の結果」70-80 年代には少女漫画に再受容されたことなどを具体的な視覚資料を用いて解説された。

日本資料を取り扱う海外機関発表者の国々を見ると、ルーマニアはもちろんのこと、ロシア、スロヴェニア、フィンランド、デンマーク、ブルガリア、リトアニア、チェコ、イギリス、さらにアメリカとカナダからの報告や提言もあった。大学図書館だったり、小規模な研究図書館だったり、美術・博物館だったりする。中でもブルガリアのソフィア大学東アジア文化学科、リトアニアの Vytautas Magnus 大学アジア研究センターは近年盛んになって来た日本研究に対応するべく図書館の充実を図る途上にあるという内容で興味惹かれた。蔵書の収納スペースがなくなって困っている筆者としては、重複書の寄贈などでできれば少しはお役に立てるかかと相談させてもらった。

各セクションの構成がよく考慮されており、多分野に及ぶ内容にもかかわらず、全体的にまとまりがあり参考になることが多かった。見学訪問も数多く準備され、日本資料に関するものとしては明治期の口絵展覧会、ルーマニア国立図書館所蔵の浮世絵コレクションを見ることができた。恒例のトラディショナルディナーでは、ルーマニア民族舞踊のデモンストレーションを楽しみながら、料理に舌鼓を打った。学会メンバーの何人かは舞踊にも参加して大いに盛り上がった。来年はノルウェーのオスロ大学図書館主催で行われる。

Miyuki Yamamoto (リヨン東アジア研究所)